11.13全国政治反乱を拠点スト⟶街頭反乱で斗い抜き、一切の力を佐ト帝国主義内閣打仆へ!

全人民的—プロレタリア的政治斗争の展開を!

プロレタリア学生同盟

10.21斗争を首都制圧⟶大阪制圧斗争として斗い抜いた戦斗的学友諸君!
我々、プロレタリア学生同盟より11.13全国政治反乱⟶帝国主義内閣実力打仆へ向けた斗争宣言を諸君への戦斗参加の招請状として発したい!

1—現在、我々が何よりもまず確認せねばならない点とは何か?
それは明確に10.21斗争が指し示した方向性であり、そして同時にその限界性でなければならないであろう。

我々は10.21斗争を現在の階級的力関係==沖縄の疑似的「返還」を軸に帝国主義者どもに優勢に進行しつつある==を逆転させつつ、社共総評既成革新ブロックの「平和と民主々義」レベルでの「圧力型」政治斗争と、'67 10.8以後の反帝実力斗争の限界を、反帝仆閣意識に支えられた反戦派労仂者・大衆自身の武装を決定的モメントとする拠点政治スト—街頭反乱の有機的結合により、プロレタリア的政治斗争として実現し、70年代权力斗争へと突入してゆく斗争として設定し、100名近い同志を首都最前線斗争で权力に奪われながらも斗い抜いた。しかしながら敵权力は10.21斗争を「权力自身の权力斗争として我々に挑んできたのである。先行的な社会的ロックアウト==自K団、右翼の組織化etc==による市民社会の組織化、そして制服・私服含めた3万人のK官による直接的武装鎮圧は何よりもその事の証左である。我々は、そのような敵权力との斗争において我々自身の宣伝煽動・暴露==イデオロギー斗争においてまず主導をとられ、そして直接的な決戦においても新左翼総体の反帝実力部隊の脆弱性に規定されて敗北的結果をもたらしたのだという事を率直に認めなければならない。21斗争におけるそのような权力の弾圧構造をはっきり分析しきり、我々に決定的に不足していた要素を総括する事なく、一般的に勝利だ?勝利だ?(中核派)と叫んだところでそれはそれ以後の斗いにおいて何を獲ち取るのかを指し示していないが故に反動的であり、日和見であるという事を確認しておかねばならない。我々は10.21斗争がラジカルに突き出した問題が不充分であり指標は安保推進佐ト帝国主義内閣実力打仆であり、訪米阻止であり首都最前線での拠点政治スト—街頭反乱など政府中枢制圧であった事をはっきり確認しておかねばならない。この斗争の質をこそ我々は11月斗争において獲得せねばならないのであり、再度の新宿騒乱や羽田の騒乱を引き起す事ではないのだ!

2、21斗争が指し示した斗争の方向性==11月斗争方針とは何か?
だとするならば21斗争が指し示した方向性を我々は如何なる方針によって継承⟶発展せしめるのかが問われねばならない。我々プロレタリア学生同盟は、その方針を《11.13全国政治反乱を拠点スト—街頭反乱の創出⟶安保推進佐ト帝国主義内閣実力打仆!》と《全人民的—プロレタリア的政治斗争の展開を!》として提出する!我々プロレタリア学生同盟は10.21斗争において登場した膨大な量としての大衆(北海道・首都・名古屋・大阪)を質へと転化せしめるべく、すなわち、大衆自身に武装をせまる斗争を11.13全国政治反乱斗争として首都拠点政治スト⟶大阪・反戦派拠点スト と街頭反乱斗争と結合して打ち抜くであろう。我々は11.13全国一斉反乱斗争において獲得すべき質とはまさに全人民的—プロレタリア的政治斗争の高次的平準化を獲得する事による70年代权力奪取斗争への我々の生命をも賭けた爆発的跳躍でなければならない。权力は我々に「权力斗争」を挑んでくるという極めて困難な現在的な状況の中で真に必要とされる事は攻撃的武装であり、武装せる万余の大衆である。10.21斗争で登場した膨大な自然発生性・量をその質に転化せよ!

10.21斗争を斗い抜いた戦斗的学友諸君!
我々プロレタリア学生同盟は、わが党派の政治生命を賭けて11.13全国反乱斗争を断固として斗い抜くであろう!
我々プロ学同旗の下、共に11.13斗争を斗い抜こうではないか!